

## I. 【基本方針】

調布市、調布市産業界と調布市の複数大学間の連携による調布市大学プラットフォーム「調布市相互友好協力協定締結大学連携」を形成し、調布市と大学間の相互友好協定をもとに、文化、教育、学術、スポーツなどの分野で援助、協力し相互発展を図ります。

参画団体：調布市、調布市商工会、調布市文化・コミュニティ振興財団、桐朋学園芸術短期大学、明治大学、白百合女子大学、ルーテル学院大学、電気通信大学、東京外国語大学、東京慈恵会医科大学

## II. 【地域の現状】

東日本大震災、台風・豪雨などの自然災害や少子高齢化、経済社会などのめまぐるしい変化は、人々の生活に大きな影響を与えている。社会全体の不安感や孤立感が増す厳しい現状のなか、現在では全国各地で多様な市民活動が活発におこなわれているが、地域社会においては、「家族」や「いのち」にかかわる問題や社会状況の中から生まれてくる様々な問題に関する解決が求められている。これらの解決のため、市民と行政、さらに高等教育機関のパートナーシップの構築や市内で学ぶ学生が広く市政に参加できる環境づくりなどの「参加と協働のまちづくり」の推進が必要とされています。

東京都調布市は、推計人口 234,776 人（2018 年 9 月 1 日）、東京都の多摩地区の東端に位置し、区部と境界を接している隣接 5 市の内の一つであり、都心に近く（都心である新宿駅との距離は約 20km）住環境の整った住宅地である。近年、市内を東西に横断する京王線の地下化が行われ、駅前エリアの再開発が進んでいるが、反面、大手企業の移転も行われました。このように、自然の豊かさも残る住みやすい街ではあるが、街並みは大きく変わり、市民の生活環境も変化していく中においても市民交流の機会を重ねていく必要があるが、これらを推進する仕組みは十分であるとはいえないのが現状です。

## III. 【プラットフォームが設定する課題】

調布市近郊を含めて地域社会においては、「家族」や「いのち」にかかわる問題や社会状況の中から生まれてくる様々な問題に関する解決が求められています。これらの解決のため、市民と行政、さらに高等教育機関のパートナーシップの構築や市内で学ぶ学生が広く市政に参加できる環境づくりが必要とされています。また、高等教育において、地域連携を基盤とした学生の主体的学習環境の構築が課題となっています。

## IV. 【調布市大学プラットフォームが取り組む課題】

◇ 調布市

- ① 少子高齢化
- ② 特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）と希望出生数との差がある
- ③ 20代から40代の市内在住者の転出意向が比較的高い
- ④ 様々な障がいのある方、高齢の方、子育て・養育中の方々、外国人の方々などへのサポート
- ⑤ スポーツ国際大会の開催

- ・2021年東京オリンピック・パラリンピック
- ・2019年ラグビーワールドカップ

◇ 産業界からの要望

- ① 調布市商工会イベントの活性化
- ② 文化、コミュニティーの推進
- ③ インバウンド対応

◇ 大学

- ① 地域活性化及び地域の安全への取組の不足
- ② 子育て・幼児の支援、小・中・高校との連携充実
- ③ 障がい者、高齢者支援の不足

## V. 【調布市大学プラットフォームのビジョン・目標】

調布市大学プラットフォームは、参画大学と調布市、産業界が連携し、地域の課題の解決に向けて活動するとともに地域と連携することによる高等教育の改善をビジョンとしています。前述の課題を踏まえ、次のように目標設定しました。

- ① 地域活性化への取組 年間4件
- ② 地域の安全への支援 年間1件
- ③ 子育て・幼児の支援、小・中・高校との連携 年間4件
- ④ 障がい者、高齢者支援 年間4件
- ⑤ 地域連携高等教育の推進 年間1件

## VI. 【中長期計画の概要】

ビジョン実現のため、調布市大学プラットフォームは、10年にわたって培われた調布市と包括連携協定大学との各専門分野における多彩な事業連携の基盤を発展させた高等教育機関プラットフォームとして、その専門性をさらに高め、多くの個人、多様な団体・企業と協働し、ネットワークをさらに広げながら、地域における高等教育機関の社会貢献活動としてのセンター機能を充実していきます。調布市基本構想（2013～2022年）の「まちの将来像」＝「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」の推進力として機能するための活動を強化し、大学の地域貢献活動を推進した上で、中長期計画を策定し、さらに地域と大学の相互貢献モデルを目指すものとします。

また、調布市大学プラットフォームは調布市を中心として、三鷹市、府中市の大学が参画しており、将来的には調布市との活動を、三鷹市民・府中市民への社会貢献に波及していきます。

## VI. 【中長期計画項目・年度別ロードマップ】

2018年から2022年までの中長期計画を策定しました。

No.	中長期計画の取組	年間件数	2018	2019	2020	2021	2022
1	子育て支援活動の実施	2	■	■	■	■	■
2	障がい者・高齢者支援活動の開催	2	■	■	■	■	■
3	音楽・芸術文化交流等の教育活動の実施	2	■	■	■	■	■

4	健康推進の教育活動の実施	2	■	■	■	■	■
5	小・中・高校生への教育活動	2	■	■	■	■	■
6	学生ボランティア教育の開発、推進	1	■	■	■	■	■
7	学生募集の共同活動	2	■	■	■	■	■
8	社会人を対象としたキャリア形成の活動	1	■	■	■	■	■
9	地域への就職促進の活動	1	■	■	■	■	■
10	共同FD・SDの開催	1	■	■	■	■	■
11	国際的なイベントでの連携	1	■	■	■	■	■

■ : 検討    ■ : 一部実施    ■ : 実施

#### ◇ 活動指標

##### ① 地域活性化への取組

地域・産業界からの意見、活動回数

##### ② 地域の安全への支援

地域・産業界からの意見、市民からの意見、活動回数

##### ③ 子育て・幼児の支援、小・中・高校との連携

児童、生徒、子育ての父母からの意見、受講者からの意見、活動回数

##### ④ 障がい者、高齢者支援

地域・産業界からの意見、受講者からの意見、活動回数

##### ⑤ 地域連携高等教育の推進

学生からの意見、市民からの意見、学生数、参加者数

## VII. 【中長期計画の評価】

### ◇ 全体評価：B

プラットフォームの活動はあるが、新型コロナウイルスの影響で、実施計画は新型コロナウイルスの感染拡大を防止する活動を検討していくこととした。また、当初計画の8大学の参画に至っていないことから全体評価は「B」としました。

## IX. 【実施体制】

調布市大学プラットフォームの実施体制は、調布市、調布市商工会、調布市文化・コミュニティ振興財団の産業界、調布市相互友好協力協定締結大学の7大学（桐朋学園芸術短期大学、明治大学、白百合女子大学、ルーテル学院大学、電気通信大学、東京外国語大学、東京慈恵会医科大学）で構成されます。年4回の定例会議を開催し、中長期計画の各取組の企画、実施を検討し、議決します。また、中長期計画の各取組の評価を行い、中長期計画の見直し、各取組の改善を推進します。これらの審議を円滑に実施するため、事務局を設けます。事務局は、連携大学の一部と調布市のスタッフが参画し、産業界との連携の窓口となります。

## X. 【2020年度の課題とロードマップ】

### ◇ 課題と対応

- ① 産業界との連携の強化
- ② 参画大学の拡充・連携充実
- ③ 国際的なイベントでの連携
- ④ 新型コロナウイルスに関する対応

調布市大学プラットフォーム事務局